

S H I M I N P H O T O

市民フォト

KAGOSHIMA

鹿児島



NO. 108

平成19年4月1日発行



【帽子の像】
～甲突川左岸緑地～

CONTENTS

「特集」環境にやさしいまちづくり……	3
クローズアップ……	12
金田 みちよさん	
学校探訪……	14
甲東中学校	
カメラトピックス……	16
まるとと桜島……	18
石田尾 博夫さん	
私の好きな場所……	20
吉嶺 史晴さん	
ふるさと再発見／文化財編……	22
大口 筋白銀坂	
あなたのフォトサロン……	24
キャンフォトクラブ 鹿児島支部	
よかタイム……	26
アンワインアシユリーさん	
街角ウオッチング……	27
前之浜駅周辺	
わが家の味じまん……	28
若松さんファミリー	
館のたからもの……	29
鹿児島市民文化ホール	
わが町上空／公営企業編……	30
交通局周辺	

★表紙写真説明

春をいっぱい見つけたよ。
(吉野小学校エコクラブの皆さん)

特集 環境にやさしいまちづくり

「地球温暖化」により生活環境や生態系に影響が現れ始め、今、その対策が求められています。

緑豊かな自然を将来の世代に引き継いでいくためにはどうしたらよいか、わたしたち一人ひとりが考え、できることから実行していくことが大切です。今回の特集では、環境にやさしいまちづくりに向けた、市・市民・事業者の取り組みを紹介します。



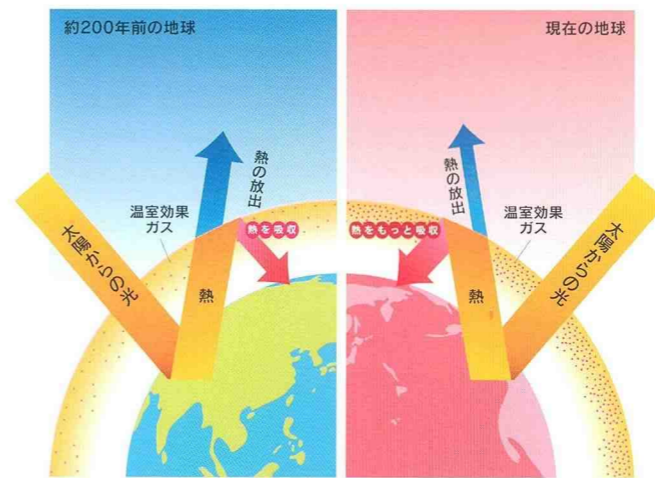


地球の温暖化とは

地球の気温は、太陽から降りそそぐ光エネルギーで地表が暖められる一方で、暖められた地表から発生する熱を宇宙に放出し、その一部を大気中の温室効果ガスが吸収することで、わたしたちの住みやすい気温に保たれてきました。

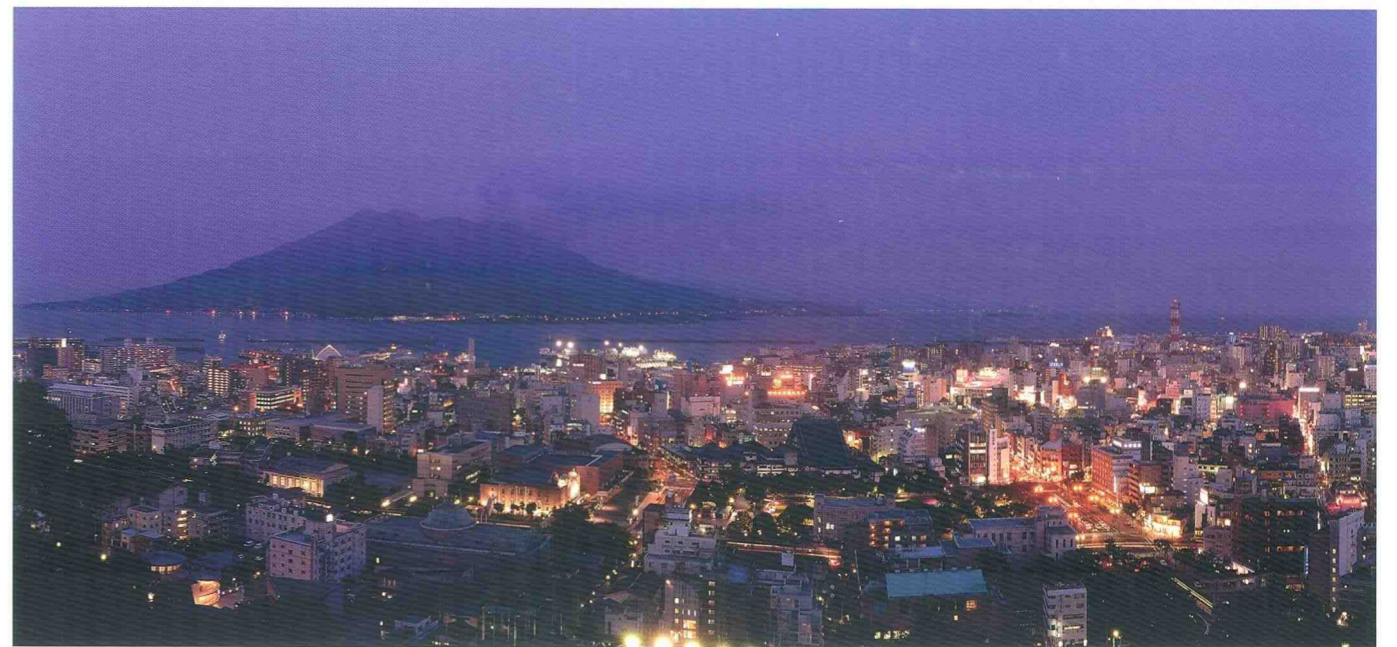
近年、わたしたちの暮らしや事業活動で大量のエネルギーが消費され、大気中の二酸化炭素などの温室効果ガスが増加。地表の熱が大気内でさらに吸収され、地球の平均気温は上昇する傾向にあります。

地球の温暖化が進むと、海面上昇や異常気象などを引き起こし、生活環境や生態系に大きな影響を与えるとされています。



地球温暖化の仕組み

資料：全国地球温暖化防止活動推進センター



鹿児島市でも見られる

地球温暖化の影響

鹿児島市は本土最南端に位置することから、真っ先に地球温暖化の影響を受ける可能性があります。

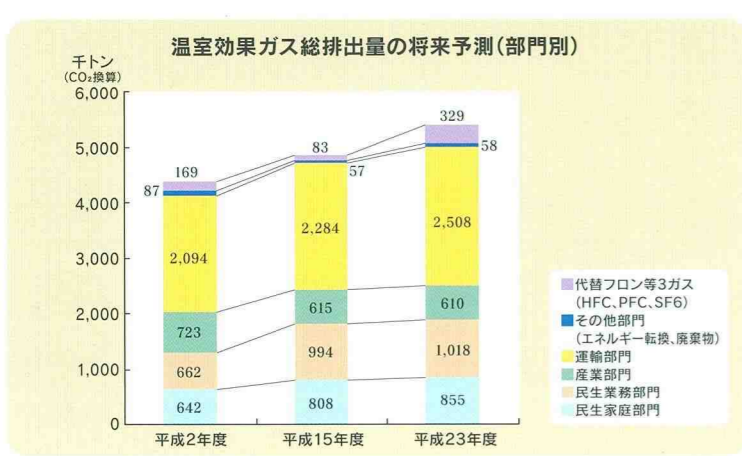
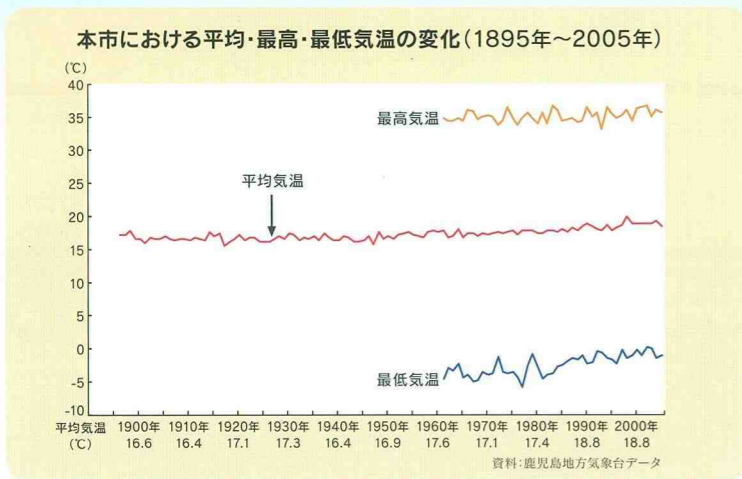
本市の平均気温の推移をみると、1900年以降は16℃〜17℃台で推移していましたが、1985年に初めて18℃を超え、近年では19℃を超える年もあるなど、上昇傾向にあります。二酸化炭素などの温室効果ガス

の増加がその要因の一つといわれています。

また、本市の平成23年度の温室効果ガスの総排出量を世帯数や生産額の伸び率などを基に、このまま新たな対策をとらないと推計すると、537万8000トン（二酸化炭素換算）となることが予想されています。

緑豊かな自然を将来の世代に

鹿児島市の緑豊かな自然を将来の世代に引き継ぐことは、今を生きるわたしたちの責務です。大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済活動や生活様式を見直し、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向けた取り組みを進めることが求められています。





■九州の公営交通では初めてのCNG(圧縮天然ガス)で走るバス



■透水性のある素材で歩道を整備(ナポリ通り)



■平成18年度は鹿児島中央駅から高見馬場交差点までの軌道敷を緑化。



19年度は高見馬場交差点から鹿児島駅までの軌道敷を緑化します



■学校の校庭の芝生化(武小学校)。平成19年度は名山・中部・清和小学校の校庭を芝生化します



■市環境アドバイザー(末吉竹二郎氏)の講演



■地球温暖化対策地域推進計画案を市長に答申

進めます！ 地球環境にやさしいまちづくり

鹿児島市では、学校の校庭の芝生化をはじめ、公共施設の屋上や市電軌道敷の緑化、公用車や市営バスへの低公害車の導入など地球環境にやさしいまちづくりを着実に進めています。

また、かごしま環境フェスティバルや市環境アドバイザーによる講演会のほか、エコライフファミリー事業や学校版環境ISOなど市民の地球温暖化防止への意識啓発を図るソフト施策も展開しています。そして、今年3月には、平成23年度の温室効果ガス総排出量を、

基準とする2年度に比べ8%削減することを目標とする「鹿児島市地球温暖化対策地域推進計画」を策定、さらに、市民・事業者・行政が協働して環境保全に取り組み「環境パートナーシップかごしま」を設立しました。

今年度は「ひろげようエコの環つなげようかごしまの未来へ」をキャッチフレーズに、環境未来館(仮称)の整備を行い、また、計画の目標達成に向けて、市民・事業者と協働して、さらに取り組みを進めていきます。

こどもエコクラブ～吉野小学校エコクラブ～

学校と児童、保護者が一緒に自然観察などの環境活動に取り組み、自然や命の大切さを学んでいます。



■みんなで春の野草探し

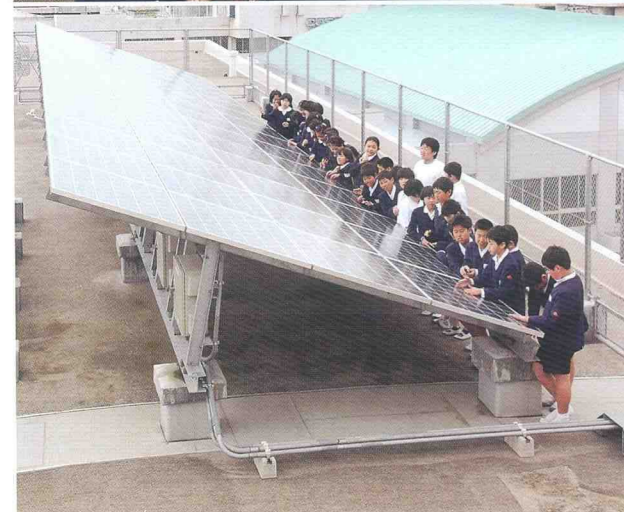


■山菜料理に挑戦!



■食べられるのかな…おいしい!

こどもエコクラブ 自然観察やリサイクル活動など、身近な地域の中でできる環境活動に自主的に取り組んでいます。



■校舎屋上の「太陽光発電システム」を活用した授業



■石けんで手を洗うときは水を止め、節水に心掛けます



■ごみは分別のルールを守って



■環境の大切さをみんなに知ってもらう環境問題新聞

エコライフファミリー
～池田さんファミリー～

夫婦で協力して節水・節電など省エネ活動に取り組んでいます。地球温暖化防止は家庭から取り組むことが大切。さらにエコライフファミリーの輪が広がっていくといいですね。



■電気は太陽光発電



■節水に心掛けています

■環境家計簿は簡単! 省エネ活動の取り組み結果も一目で分かります

エコライフファミリー事業 市民の皆さんに「地球にやさしい生活」を身に付けてもらうためスタート。平成18年度は53家族から取り組みの結果報告がありました。

学校版環境ISO ～宇宿小学校～

児童会の環境飼育委員会を中心に、節水・節電などの省エネ活動に取り組んでいます。また、環境問題への児童の関心を高めるため、手作りの環境問題新聞などを使った広報や全校集会での発表も行っています。こうした学校での取り組みを通して、家庭や地域での環境意識の高まりが期待されます。

学校版環境ISO 学校での環境にやさしい活動を進めるためにスタート。平成18年度は小学校19校、中学校6校が認定されました。

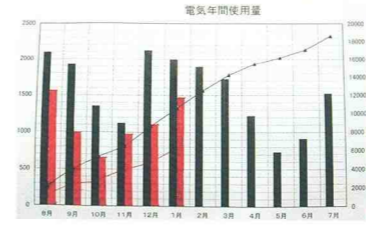


一人ひとりができることから

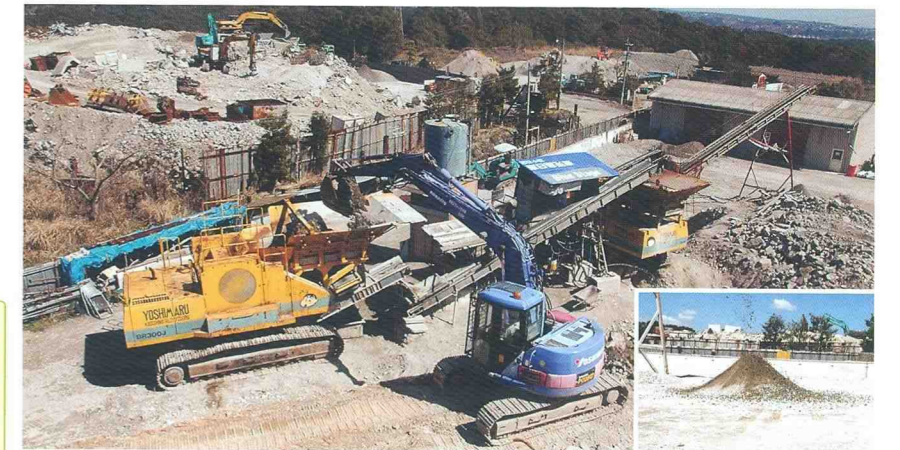
地球温暖化防止のため、省エネ活動やものを大切に使うなど、環境にやさしい取り組みを実践している市民や学校、事業所などを紹介します。

環境管理事業所
～建設業～

事務室の unnecessary 電灯の消灯やミスコピーの再利用など省エネ活動に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努めています。また、工事現場から発生するコンクリートガラなどの建設副産物を再資源化し、最終処分埋立量の削減にも努めています。



■ unnecessary 電灯は消灯。目標達成に向けみんなで取り組みます



■ 自社プラントで建設副産物を再資源化し、再利用に取り組んでいます



環境管理事業所 環境負荷の少ない事業活動を行っている事業所を認定する制度。現在、200を超える事業所が認定されています。経費節減や仕事の効率化だけでなく、社員の環境意識の向上にも役立つ制度です。

屋上緑化 ～保育所～

断熱効果や二酸化炭素の吸収など地球温暖化防止に効果がある屋上緑化。園児の遊び場としても活用しています。



民間建築物の屋上・壁面緑化助成 都市高温化現象を緩和し、緑の街並みづくりを進めるため、市街化区域内の民間建築物の屋上や壁面の緑化に助成しています。

市長に聞く

～環境にやさしいまちづくり～



森 博幸 市長

■ わが国の重要課題の一つである地球温暖化問題に、市長はどのような考え方に立って取り組みを進めていかれますか。

人類の生存基盤にかかわる地球温暖化問題は、世界全体で取り組むべき、もっとも重要な課題です。わたしは、本市の豊かな自然環境を将来の世代に確実に引き継いでいくことが、今を生きるわれわれの重要な責務であると思っています。行政だけではなく、市民の皆さんや事業者もこのことを自らの課題としてとらえ、環境負荷の少ない循環型社会をみんなが一緒になってつくっていかねばならないと考えています。

■ 地球温暖化対策として、市ではどのような取り組みを進めておられますか。
環境負荷の少ない、緑豊かなまちづくりのために、

市電の軌道敷や学校校庭、公共施設の屋上の緑化などの都市高温化対策に取り組み、さらに平成二十年の供用開始を目指して、環境未来館(仮称)の建設を進めています。また、環境家計簿をつけてもらうなどの家庭でできる省エネ活動を普及させる事業や市・市民・事業者が一体となって環境問題を考える「環境パートナーシップかごしま」の設立などのソフト面の施策も展開しています。

そして、今年三月には中核市の中ではいち早く「鹿児島市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、計画で掲げる目標を達成していくための地域推進会議を設置するなど、市民や事業者との協働による取り組みをさらに積極的に進めていきます。

■ 「環境未来館(仮称)」を、市長は今後の取り組みの中でどのように生かしていきたいと考えておられますか。

環境問題は市民一人ひとりの日常生活や地域社会での身近な取り組みが大切です。環境未来館(仮称)は、展示の観覧や学習・活動の場の提供といった従来型の施設ではなく、市民の皆さんが環境問題に主体的に取り組んでもらえるよう、市民とともに育てていく施設として整備を進めています。市民の皆さんには、環境問題についての取り組みや学習の成果を自ら企画して発表する場として、また、環境保全活動に取り組む活動拠点として利用していただき、循環と共生を基調にした「環境文化都市」の実現に向けて、最大限活用していきたいと考えています。



環境未来館(仮称)完成予想図
環境負荷の低減に配慮した緑化を行います



市長公用車を環境にやさしいハイブリッド車に



Close Up

クローズアップ

金田 みちよさん

略 歴

昭和37年生まれ。
昭和61年に渡米し、平成4年クレイアート活動を開始。
平成9年に帰国し「こねこねランド」を設立後、県観光連盟のジオラマ制作やテレビ、雑誌の表紙を飾る作品制作などで活躍。生徒の育成にも力を入れる。

ねんどの持つ魅力を生かし 作り手の想いを伝える。

ねんどの持つ使命

プチトマトサイズの青いねんどもに大豆サイズの水色、白、黄緑のねんども。これらのねんどもを使って、ねんども教室やイベント会場で必ず作ってもらうもの。それは、わたしたちの住む地球。「みんな同じ星に住む家族だから仲良くしましょうね」というメッセージを込めている。

ねんどもの魅力であり使命ですね。イベントなどを通して、ねんども作りへの敷居を低くし、ねんどもの素晴らしさをたくさんの人に伝えることが私の仕事なんです。

「日本から世界へ ねんどものすばらしさを発信

「遊びに行こう」、「半年ぐらいアメリカの勉強に行こう」と気軽に行っていたアメリカ。あまりの居心地のよさに、10年以上も滞在。その間、ねんどもは趣味でやっていたが、作り方を教えたりプレゼントするとみんなが喜び、楽しんでくれる。作品を見て温かくな愛を伝授することが出来る。そんな愛を伝授することが出来る道具を使ったクレイアーティストという職業についた。

「ねんどもは、作っているときの楽しい思い出を未来の自分に思い返させてくれたり、思いを込めてつくったものをプレゼントすることで自分の気持ちを伝えてくれます。それがね

当初、アメリカで活動しようと考えていたが、「私は日本人。日本から世界に発信していくべきだ。そう思い立ったら、アメリカ生活をたたくんで、

すぐに日本に帰ってきていました」。

はじめは、白い紙ねんどもに色を塗っていた。老人ホームや病院などでのリハビリ、子どもたちの情操教育、サラーマンや子育て中のお母さんなどの癒やしになればと思っていたのに、色を塗るやり方では手軽にはじめることができないことに気がついた。敷居が高い、普及できないと考え、色のついたねんどもを開発。紙ねんどもに顔料を入れて色をつけ、樹脂を入れることで、自然乾燥してもひび割れない、落としても壊れないといったねんどもを業者と協力して生み出した。「思い出の詰まった作品をいつまでもとって置くことができるんですよ」。

「尽きない夢

仕事のない日は、映画を観たりして体を休める。しかし作品制作は欠かさない。何か一つの物を作るのではなく、遊園地の様子などストーリーのある作品を手がけている。

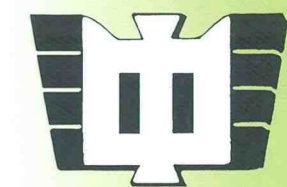


手取り足取り教える金田さん。子どもたちはちょっとしたコツですぐにできるようになる。

作った人形を使って動画を作る「クレメーション」にも力を入れる。「クレイセラピストもやってるんですよ。赤、黄色、ピンクは元気になる色。そんなねんどもの色で癒やされるだけでなく、ねんどもに香料をいれて香りでも癒やされるようにしていきたいんです」。

金田さんの活動の中心にあるものは、ねんどもの持つ力で人を癒やすこと。自分の制作活動をしながら、性別、職業、年齢に関係なく芸術家を育てたい、もっとたくさんさんのイベントや教室を開きたい—そんな果てしなく続く夢はすべてそこにつながっている。

甲東中学校



創立 昭和22年5月 生徒数 249人(平成19年3月1日現在)

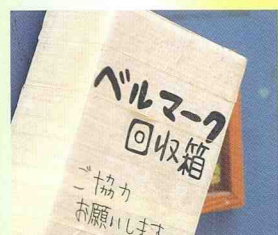
「県花いっぱいコンクール」で優良賞を受賞。園芸部を中心にみんなで手入れ



早朝清掃やアルミ缶回収などの長年にわたる活動で厚生労働省感謝状と内閣府表彰をダブル受賞



始業前に学校周辺を毎日清掃



花と歌と ボランティアと



校内のいたる所に花鉢が



毎年6月に行う音楽コンクール。歌を通じてクラスの結束が強まる



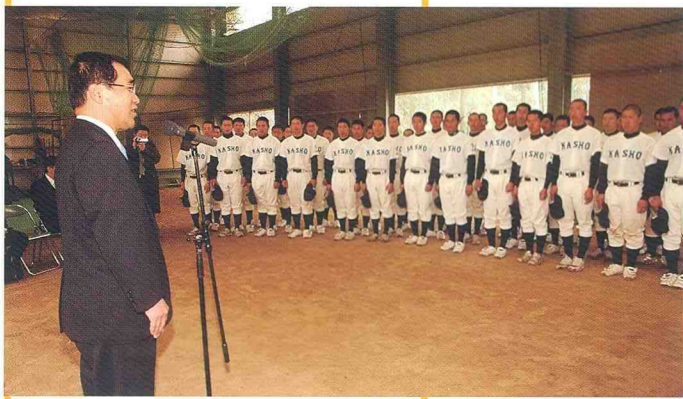
技術・家庭科のしみ抜きの実習。「きれいに落ちたかな？」



都市農業センターでの農業体験。初めての田植えに悪戦苦闘



市街地の中心にある学舎。今年で創立60周年



2月17日
鹿児島商業高校野球部を市長激励訪問
21年ぶりに春の選抜高校野球大会に出場する市立鹿児島商業高校野球部を市長が激励のため訪問しました。



2月1日
市地域包括支援センター開設
高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、介護予防ケアプランの作成や相談業務などを行う地域包括支援センターが市内15カ所に開設されました。



1月12日
桜島火山爆発総合防災訓練
桜島の大噴火を想定した総合防災訓練が鴨池補助競技場や桜島溶岩グラウンドなどであり、市消防局や県警など116機関、約5200人が参加しました。



1月5日
中央卸売市場初せり
新鮮で安全な生鮮食品を供給する中央卸売市場の青果、魚類市場で初せりが行われました。



2月下旬
菜の花(慈恵寺公園)



2月2・3日
第15回生涯学習フェスティバル
「輝くまち 笑顔あふれる 学びの輪」をテーマに、サンエールかごしまや中央公民館で開催。日ごろの学習成果の発表や講演会などが行われました。



1月28日
第7回世界一桜島大根コンテスト
桜島大根の大きさなどを競うコンテストと桜島の旬の味を楽しめるカンパチ&ブリ大根まつりが桜島多目的広場で行われ、多くの人でにぎわいました。



1月6日
新成人のつどい
成人の日を前に一足早く行われた「新成人のつどい」。スーツや振り袖に身を包んだ約5000人が集いました。



2月25日
ランニング桜島第27回大会
5キロ、10キロ、ハーフマラソンの3部門に県内外から約3000人が参加。完走を目指し、さわやかな汗を流しました。



2月14日
高度救助隊発足
愛称は「スーパーレスキューかごしま」
新たに救助工作車と高度救助資機材が整備された中央消防署に高度救助隊を設置。その発足式が行われました。



2月1日～3月9日
プロスポーツチーム鹿児島キャンプ
鹿児島に春の訪れを告げるプロスポーツチームのキャンプがスタート。プロ野球の千葉ロッテマリーンズやJリーグのジュビロ磐田などがキャンプを行いました。

1月10日～16日
第17回鹿児島物産と観光展～トップセールス
北九州市内の百貨店で開催された物産観光展で、市長自ら鹿児島の食と観光をアピールしました。





桜島自然恐竜公園から眺める夜の錦江湾

桜島大根

有村溶岩展望所から見る南岳

【桜島遊学プログラムの構築】



桜島をまるごと博物館に
桜島の特性や課題を踏まえ、このプランでは、桜島をまるごと、博物館に見立てて観光に活用することにしました。つまり、桜島全体を「博物館の建物」に、桜島の自然や温泉、歴史、食、人々の暮らしなど多彩な魅力を「博物館の資料」に置き換えて活用を図ろうとするものです。

を創出することが大切です。市では、こうした視点にたった「桜島観光振興プラン」を今回策定しました。策定に当たり、有識者や市民などの意見を反映させるため委員会が設置され、私を含め、10人の委員が各面から意見を交わし、検討を重ねました。

このプランを推進していくためには、市民をはじめ事業者、行政、

世界へ向けて情報発信
インターネット上の情報空間が世界最大の観光地ともいわれる今日、多くの観光客に来てもらうようインターネットなどを活用して、その魅力を積極的に情報発信することが大事です。

そして、このプランの基本コンセプトは、市民や観光客など誰もが「遊び学べる空間」とすることを目指して「みんなが集う『遊学アイランド桜島』としました。今後、桜島「7つの魅力」を組み合わせた、遊びながら学べる「桜島遊学プログラム」を市民と協働して作成していくことも大事な取り組みです。

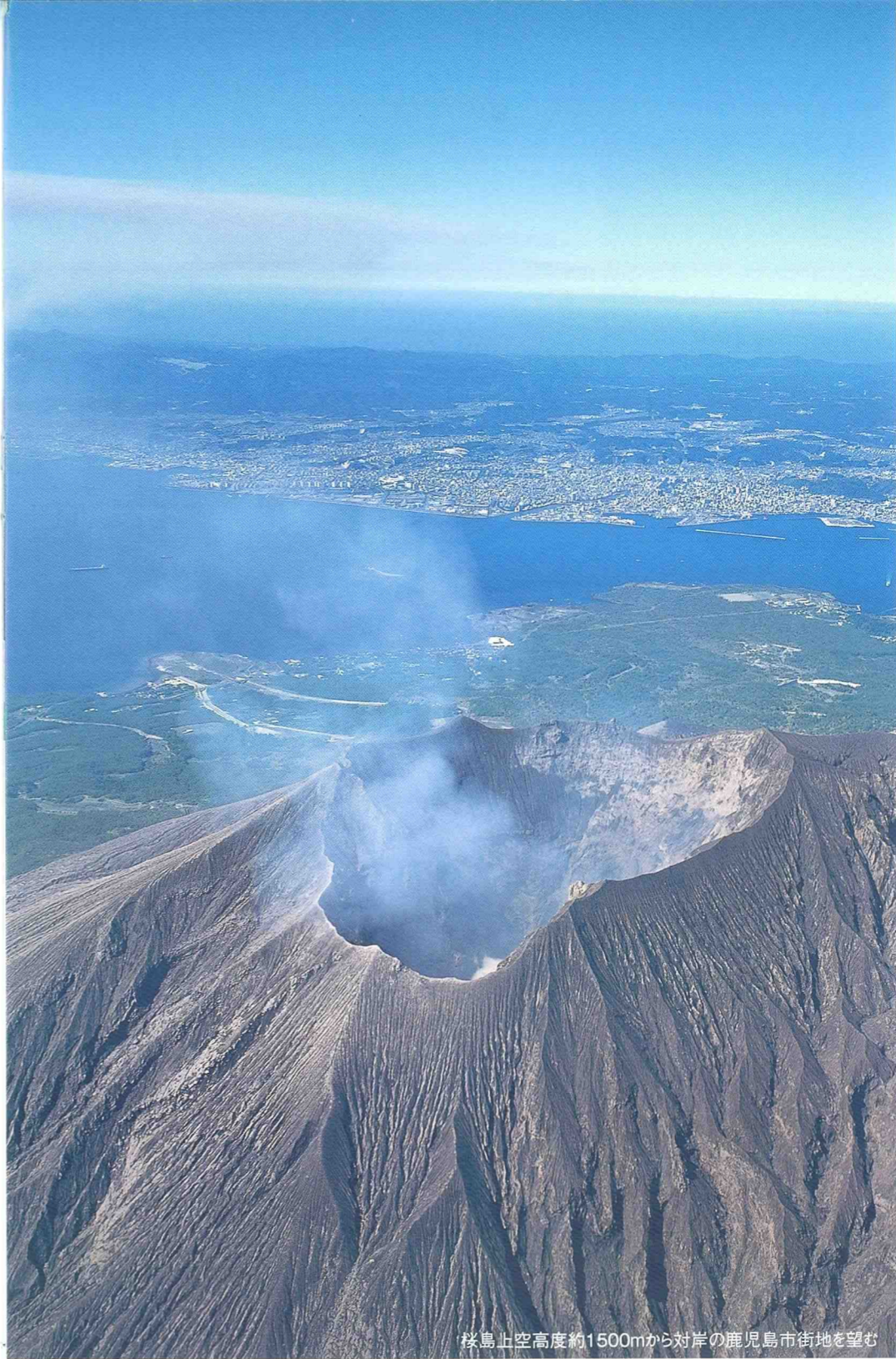
取材メモ
県内外で多くの地域興しに携わってきた石田尾先生。「桜島の魅力を最大限に生かしていくためには島というより地域という概念で、桜島という財産を、過去の歴史も含めて、みんなが誇りに思うことが大事」。穏やかな口調にも説得力がありました。



桜島観光振興プラン策定委員会委員長 第一工業大学教授 石田尾 博夫氏

話をしてくれた人

教育・研究機関が連携しながら取り組んでいく必要があります。市民共有の財産である「桜島」。市民や多くの観光客との交流で活気があふれる島、まちになることを願っています。



桜島上空高度約1500mから対岸の鹿児島市街地を望む

まるごと桜島 4

～最終回～

錦江湾に浮かぶ活火山「桜島」。時には厳しく、時には優しく、激しさと静かさを兼ね備え、見る人の心を引きつけます。市民の生活の原風景「桜島」。合併でひとつになった桜島を、シリーズで追ってきました。



観光鹿児島島の大きな魅力「桜島」

鹿児島島の象徴であり、観光の大きな魅力のひとつである「桜島」。今なお噴煙を上げ続ける南岳をはじめ、特色ある農産物や水産資源、噴火の歴史を物語る大溶岩原など、多彩な観光資源を有し、同時に「活火山」という地球の雄大な営みを体感できる、国内でも数少ないところ。国内外から訪れる観光客の心に大きな感動と鹿児島島の旅の思い出を刻んでくれます。

新たな魅力の創造を

今日、国内観光は、今までのように物を見るというスタイルから、地元の人と交流や体験を楽しむスタイルへ、また、団体や修学旅行が中心の時代から、「個衆」という一人ひとりが目的やテーマごとに動いていく時代に変化、多様化してきています。

桜島の観光もこのような観光ニーズ（需要）の変化に対応する必要があると思います。多彩で一つ一つが魅力的な観光資源を有機的に結びつけ、さらに魅力ある桜島

木々の息遣いを感じる場所 ここでの時間が創造力をかき立てる

リコーダー(縦笛)と出会ったのは、小学3年生のときでした。母がピアノの先生をしていたこともあり、わたし自身、吹奏楽や合唱のクラブ活動をするなど、子どものころから音楽に親しんでいました。木製のリコーダーを買ってもらったのが中学1年生のとき。今考えてみると、木という自然の素材で作られた楽器から出る音色に惹かれていたのかもしれない。木製のリコーダーは、その素材の種類によって音の個性があるんです。柔らかい木で作られたものは柔らかい音が出ると

数多くの木々が生い茂る、ここ「千年の森」。友人に紹介されてCDのジャケット撮影のために訪れたのが最初でした。自然に囲まれた場所だから、というごく単純な理由でこの場所が好きになりました。音楽に行き詰まったとき、本を読んだり散歩をしたりして創造力を刺激します。この森もそんなときに訪れる場所のひとつです。

千年の森



リコーダーの魅力市内の中・高生に紹介(アジア青少年芸術祭での講習会)

教室で練習するという日々。とにかくうまくなりたいという一心でした。卒業後、国内で演奏活動をしていましたが、「もつとうまくなりたい。そしてリコーダーが全盛期を迎えたころの古い時代の音楽を勉強したい」という思いからベルギーへ。1995年からベルギーが世界に誇る「フランダース・リコーダー・カ

イクで学校へ行き、朝まで本格的に練習を始めたのは大学生になってからでした。夜中に寮を出てバイクで学校へ行き、朝まで

いったように。

【千年の森】



所在地: 鹿児島市西俣町
アクセス: 鹿児島中央駅から車で40分
(林田バス郡山岳行き 平原峠バス停から徒歩20分)

リコーダー奏者・作曲家

吉嶺 史晴さん

1962年、鹿児島市生まれ。1985年東京学芸大学卒業。1992年ベルギー政府給費留学生として渡欧。1995年から1999年まで「フランダース・リコーダー・カルテット」のメンバーとして演奏活動を行う。2000年ブリュッセル王立音楽院修士課程修了。2001年から鹿児島国際大学短期大学部非常勤講師。後進の指導に携わりながら演奏活動、創作活動を展開中。1993年オルフェウス プライス93にて特別賞受賞など多数の受賞歴をもつ。



私の好きな場所
My favorite Place

「取材メモ」
日本はもちろん世界の舞台で活躍される吉嶺氏。どんなときでもどんな場所でも、「リコーダーに対するひたむきな姿勢と深い愛情」を忘れない人。優しくて穏やかな雰囲気の中に、そんなことを感じました。

今、短大で音楽理論を教えながら演奏活動をしています。鹿児島島に帰ってよかったと思うのは、「家族がそばにいる」ということ。国際的に活動する音楽家といふのは、根無し草のような生活ではない、根っこが必要だと思っんです。たとえ小さな町であったとしても、拠点があると活動範囲は広がります。そういった意味で、日本に帰ってきてよかったと思っています。

小学校で使うプラスチックのリコーダーではなく、本物のリコーダーの魅力、ピアノなどほかの楽器と同じように、奏でる人、聴く人を魅了する奥の深い楽器だということを知ってもらいたい。そのための活動をこれからも続けていきたいと思っています。

大口筋白銀坂

文NPO法人かこしま探検の会
専務理事 東川 隆太郎



薩摩・大隅国境を結んだ石畳の険路

白銀坂は、牟礼ヶ丘から始良町脇元までの石畳の残る旧街道で、この辺りは古代における薩摩・大隅両国の国境であった。戦国時代には、島津貴久や義弘などの武将がここに砦を構えたといわれ、江戸期には薩摩藩の主要街道・大口筋で一番の難所として知られた。その歴史的・文化的な価値の高さから、平成七年に国土交通省選定「歴史国道」に、昨年七月には国の史跡に指定されている。

私事だが正直な告白をひとつ。わたしは未だに白銀坂を完全踏破したことがない。登った人の証言で「歩きやすいですよ」などの朗報は少ない。そのため人口付近をウロウロするばかりで、それ以上行動を起こしていない。この寄稿を

機に、一度は「下り」からでも歩いてみたいと考えている。

この白銀坂。大多数が「しらかねさか」と読む。しかし戦国時代の文献などには「しろかねさか」、「しらがねさか」と濁ったり、「白金坂」と表記するものもあり、諸説入り乱れて少々ややこしい。

白銀坂は、藩政時代の主要街道・大口筋にあることから多くの旅人がこの坂道を往来してきた。明治になって現在の国道十号が整備されるまでは、鹿児島と始良・加治木方面を結ぶ重要な陸路であった。それだけに、坂道を往来した旅人は通行の際の印象などを記録として残している。

天明三（一七八三）年、地理学者で医師の古河古松軒は紀行文「西

遊雑記」のなかで「此白銀坂は三里の間は休むべき所もなく、往来も稀の坂みち、心ほそく思ひし事なりき」と記している。白銀坂には茶屋などの休憩施設がなく旅人は不安を感じていたらしい。

島津第二七代斉興にひいきにされた江戸の講釈師・伊東凌全は、天保六（一八三五）年に白銀坂を通行し、紀行文「鹿児島ぶり」に「薩摩の箱根と云、御領国第一の難所なり。此坂上に薩摩、大隅の境木あり。且、吉田、重留（富）の郷境なり」と記している。やはりかなり険しい道に映ったようで、坂の途中には薩摩・大隅両国を分ける目印があったことが分かる。

また天保十四（一八四三）年に編纂された地誌「三國名勝図会」には

「行人足を傷り易し、本府近地の険は、白銀を以て第一とせり」と難所ぶりを伝えている。

時を経て、白銀坂は暮らしに身近な道としてでなく、余暇や健康づくりのための散策路として活用されている。この坂の近くにある市立少年自然の家では、白銀坂遠行を実施するなど、青少年の健全育成にも役立てられている。

時代は下ろうとも、この坂の険しさに変わりはない。今度訪れるときは、時代の移ろいを感じながら昔の旅人の気分をしっかりと味わって踏破しようと考えている。



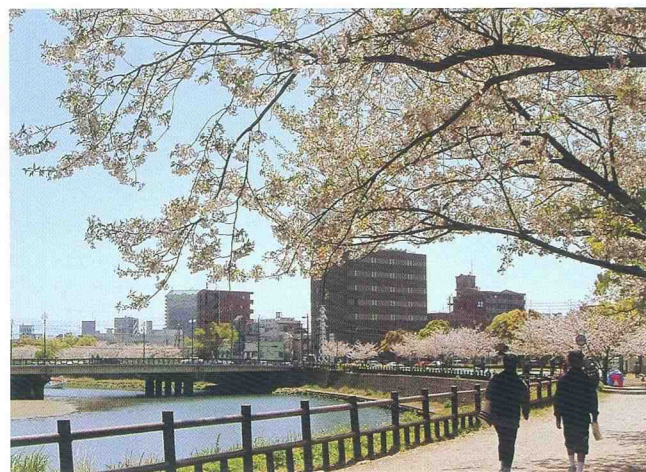
■白銀坂遠行を楽しむ
東谷山小学校の児童

所在地／宮之浦町、国指定史跡「大口筋白銀坂龍門司坂」の一部

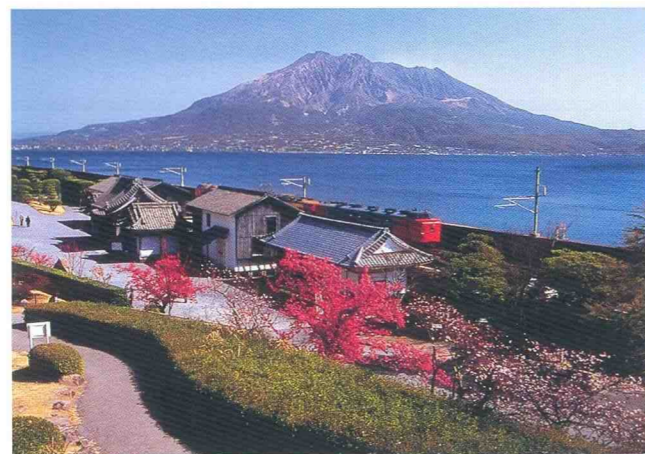


■藩政時代の主要街道

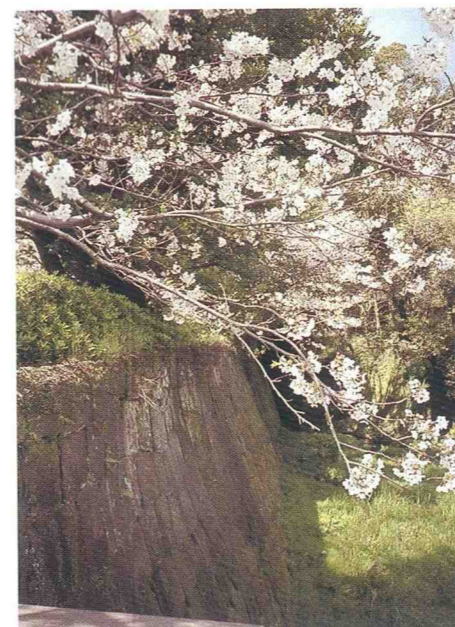
（国土交通省九州地方整備局
鹿児島国道事務所提供）



「春の散歩道」 竹下 宗一郎



「春うらら」 園田 晃朗



「春の息吹」 村田 義徳

「かごしまの春」

キャノンフォトクラブ鹿児島支部



「春色じゅうたん」 宇治野 桐子



「魅せられて」 園田 千代子



「春らんまん」 吉名 康展

よか時間

TIME

空手

アンワイン・アシユリーさん



空手との出会いは

3年前にアメリカのテキサス州から英語教師として赴任。来日前から武道に興味があり、近くの道場で初めて空手を見たのがきっかけです。一つ一つの動きの中にある緊張感のようなものに魅かれました。

空手を始めて

変わったことは

自分の体が分かるようになりましたね。普段の生活ではなかなか感じることはないですが、空手をやっている则ち自分の体思うようには動かないということが分

かるんです。精神を集中すると、決まった動きの中で何かを表現することの難しさを感じることがあります。

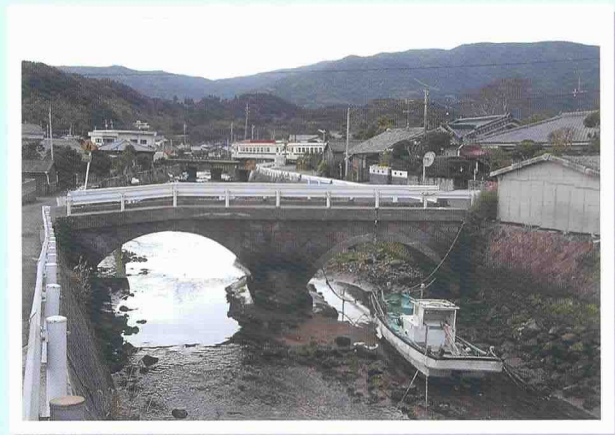
そしてそれを克服するためにもっともつと練習したいという意欲が沸いてきます。

あいさつなどの礼儀作法を通じて、日本の文化や精神を学べることも魅力ですね。

これからの目標は

初段をとったのが1年半前なので、二段に昇段すること、そして5月に開催される県の選手権出場ですね。今、入門している道場の流派は鹿児島から世界中に広がっています。「カラテ」は世界共通語。アメリカに帰っても、故郷の子どもたちに空手の面白さや日本の精神を伝えることができればいいと思っています。

テキサスから来た
ラストサムライ。
空手から日本の精神を学ぶ



街角

ウォッチング

～前之浜駅周辺～
(喜入前之浜町)



わが家の味 がまん

「きびなごフライの
裏巻き寿司」

「里芋のエビあんかけ」

若松さんファミリー
【伊敷台四丁目】



家庭の数だけ食卓があり、家庭の数だけ語りがある。テーブルに広げられた自慢の料理は、家族の笑顔を演出する。
鹿児島市内におよそ25万8千世帯。一人から大家族まで食卓の風景はさまざま。わが家の味は家庭をどのように彩っているのだろうか。

「簡単・手軽ですよ」と「きびなごフライの裏巻き寿司」について話す鹿児島女子高校に通う亜紀子さん。実はこの料理、昨年10月の鹿児島県高校生シーフード料理コンクールで227人の応募者の中から、見事、県知事賞に輝いた創作料理だ。

ひな祭りの日、父親・裕さんと大学生の姉・玲子さんのリクエストに応え、亜紀子さんと母・あや子さんが料理に腕を振るう。市内に住む洋子さん、折よく東京から来鹿した昌弘さんの親戚2人も駆けつけた。

裏巻き寿司は、黒白のゴマの匂いが香ばしい。キビナゴの旨味を青じそが優しく包み込む。子どもからお年寄りまで楽しめるクセになる美味しさで、色合いも食欲をそそる。お次は「里芋のエビあんかけ」。色と形が女子高の校章・白梅を連想させる。里芋はしっかりと蒸されて柔らかい。むっちりした軽い歯ごたえのエビと

の相性もバッチリ。口いっぱいにとろりと広がるあんのおつゆが波のようにのどを通り過ぎ、上品な味・香り・彩りの三重奏が心地よい。「お父さん、なかなか子離れできなくて」と母娘3人が笑顔で話す傍らで、苦笑いを浮かべる裕さん。久しぶりに会った親戚との会話を弾む。

料理に込める心、美味しくいただく気持ち。食卓は家族の最も大切なコミュニケーションの場だ。料理コンクール優勝後、初めて迎えた愛娘たちのひな祭り。その料理の味と食卓での語らひは、若松家の温かい思い出として記憶に残っていくに違いない。

今回のレシピ

「きびなごフライの裏巻き寿司」

1. 材料 (4人分)

ご飯8膳分、すし酢大さじ8、キビナゴ24匹、キュウリ1/2本、カニかまぼこ1本、青じそ12枚、焼きのり4枚、白・黒炒りゴマ、塩、マヨネーズ、小麦粉、卵、パン粉適量

2. 調理手順

- ① 温かいご飯にすし酢を合わせ、すし飯を作る。
- ② キビナゴは頭と内臓を取り、油で揚げてフライにし、キュウリ、カニかまぼこを長く薄く切る。
- ③ クッキングペーパーをのりの大きさに切り、巻きすに置いてのりを載せ、すし飯を広げる。
- ④ ③ののりをすし飯ごと裏返し、青じそ、キュウリ、



カニかまぼこを載せ、マヨネーズをかけてキビナゴを巻く。

⑤ 巻きすとペーパーをはずし、周囲に白ごまをたっぷりまぶす。同様にもう1本、黒ごまをまぶして巻く。

「里芋のエビあんかけ」

1. 材料 (4人分)

里芋400g、エビ6尾、シメジ半株、オクラ3本、とうもろこし大さじ3、だし汁カップ2、酒大さじ2、みりん大さじ3、片栗粉大さじ2 1/2

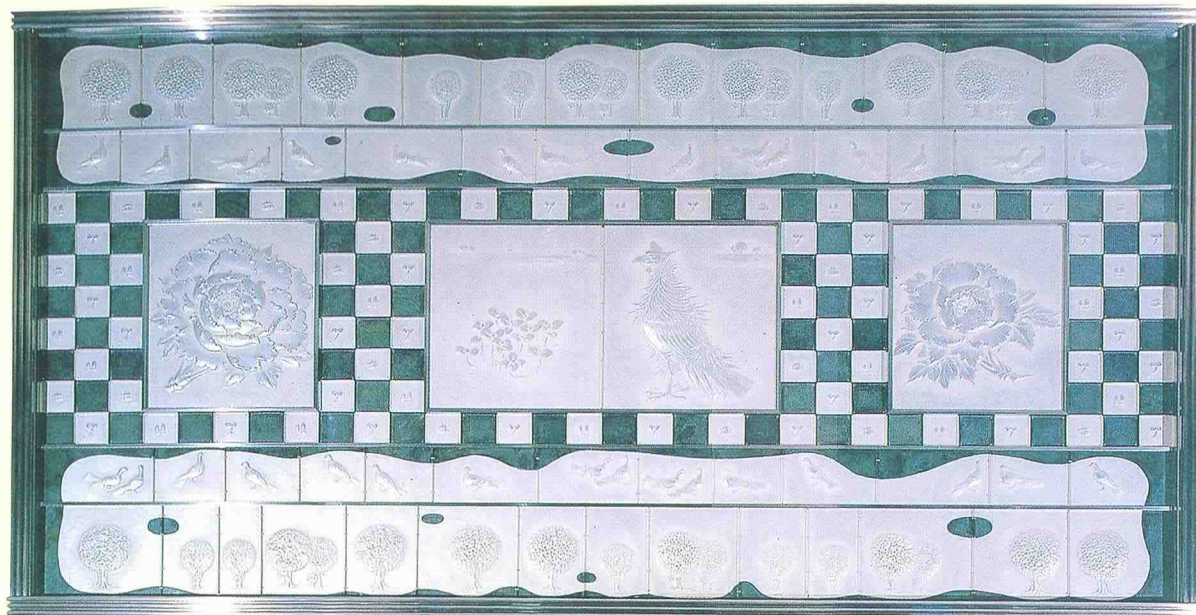
2. 調理手順

- ① 里芋は皮をむいて乱切りにし、塩少々まぶし強火で蒸す。蒸し上がったら4等分し、それぞれラップで包む。
- ② エビを1、2センチに切る。シメジ、オクラも同様。
- ③ だし汁などを煮立て、②とうもろこしを入れ、片栗粉でとろみをつけ里芋にかける。



鹿児島市民文化ホール

ちよう さ よしゆき ようこう わ さんそう
帖佐美行作「陽光和讃想」



「陽光和讃想」は、大正4年に宮之城町(現さつま町)に生まれ、平成5年に文化勲章を受章するなど彫金界の第一人者として活躍した帖佐美行氏の銀製彫金です。

鳳凰、若芽、牡丹の花の周りに、鳩、木々を配した作品で、大きさは縦3m横6m。このような大型の彫金はほかではなかなか見ることができません。鳥や木の実などの自然を好んで題材とした作者の自然への深い愛情や賛美をうかがい知ることができます。

文化ホール開館後も幾度かホールを訪

れ、桜島や錦江湾のスケッチを楽しんだ帖佐美行氏。平成14年に87歳でその生涯を終えました。

鹿児島市民文化ホールは、来年2月で開館25周年を迎えます。この彫金も開館当初から多くの来場者や催し物を見守ってきました。これからもエントランスホールの壁面から、多くの皆さんを静かに迎えてくれることでしょう。

(鹿児島市民文化ホール館長 内田龍朗)



わが町上空

公営企業編

交通局は昭和3年に民間から軌道事業（路面電車）を引き継ぎ、翌4年には自動車運送事業（バス）を開始。以来、約80年にわたり通勤・通学など市民生活を支える重要な公共交通機関としての役割を果たしています。市電は年間約1000万人、バスは約1200万人の利用客があります。

市民に親しまれる公共交通機関として、安全快適で人と環境にやさしい車両を導入するなど、幅広い立場から乗客サービスの向上に取り組んでいます。

甲南中学校の敷地内には三方限出身名士顕彰碑があり、上之園町、高麗町、上荒田町（三方限）出身で幕末から明治維新にかけて活躍した西郷隆盛など48人の偉人をたたえています。

武之橋近くにある松方公園は、明治維新後、首相や大蔵大臣として日本の発展に尽くした松方正義の生誕地で、記念碑が建てられています。

サンエールかごしまは「生涯学習プラザ」で「男女共同参画センター」の複合施設で、市民のさまざまな活動や取り組みを支援しています。

上荒田町にある日本たばこ産業（JTI）鹿兒島工場跡地は、老朽化した市立病院と交通局電車部門などの移転先として、各面から検討が進められています。

「交通局周辺」



市民フォト

鹿児島

No.108

編集・発行／鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11番1号

電話 216・1133

印刷・レイアウト／瀬上印刷株式会社

